

## 【漁況】

### [マアジ]

#### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トンピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2020年は9万8千トンとなりました。

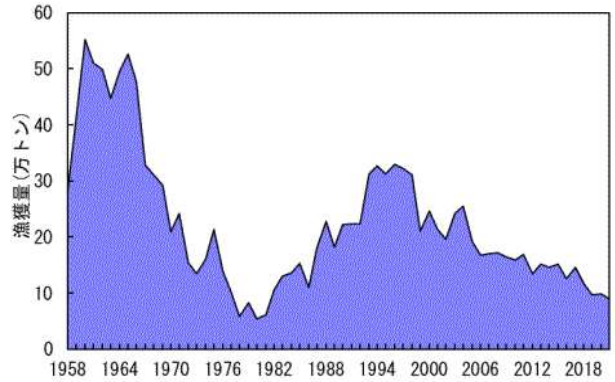


図 全国のマアジ漁獲量の推移

#### 2. 県内の令和5（2023）年4～6月期の漁況の経過

##### 【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、4月に縄瀬、牛深沖でマアジ豆（1歳魚：2022年生まれ）主体に漁場が形成されました。5月に五島下、牛深沖でマアジ大、マアジ中、マアジ豆主体（1～3歳魚以上：2020以前～2022年生まれ）に漁場が形成されました。6月はまとまった漁場は形成されませんでした。

薩南海域では、4月に立目沖でマアジ豆主体に漁場が形成されました。5月にも立目沖でマアジ豆主体に漁場が形成されました。6月はまとまった漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、期全体で722トンの水揚げで、前年の64%及び平年の133%でした。

#### 3. 県内の令和5（2023）年7～9月期の見とおし

漁獲主体：マアジ豆、小（0～1歳魚：2022～2023年生まれ）

来遊量：前年・平年を上回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

4～6月期までの漁獲の主体であった1歳魚に加え、今後は0歳魚も漁獲の主体となることが予測され、本年におけるまき網漁業の漁模様から、前年・平年を上回ると考えられます。

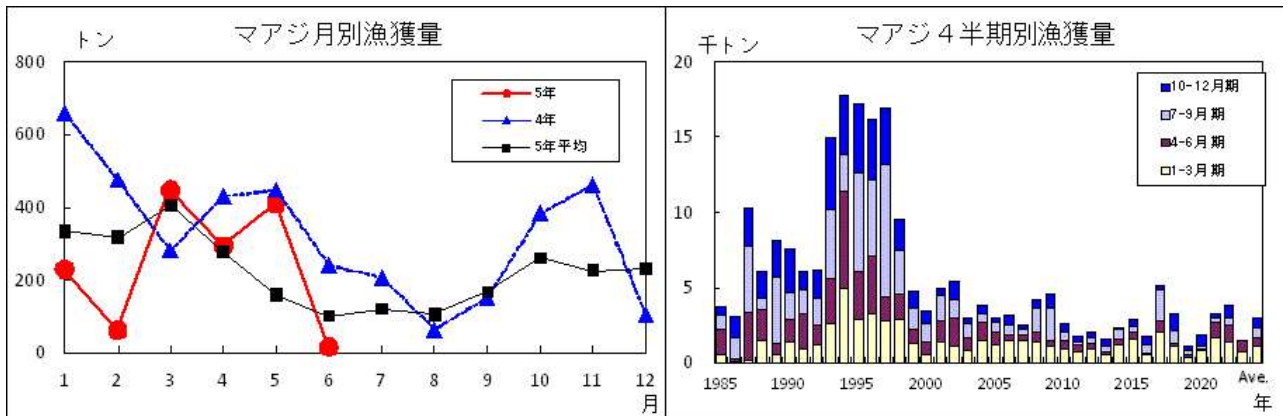


図 マアジまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年6月21日までの水揚げ量を使用

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2021年は44万3千トンとなりました。

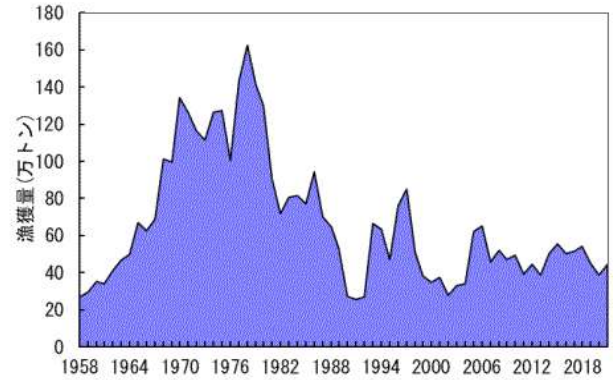


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

### 2. 県内の令和5（2023）年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、4月に縄瀬、西沖でサバ類小、豆（0～1歳魚：2022～2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。5月に五島下でサバ類中、小、豆（0～2歳魚：2021～2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。6月はまとまった漁場は形成されませんでした。

薩南海域では、4月に立目沖でゴマサバ大、小、豆（0～4歳魚以上：2019以前～2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。5月に湯瀬、宇治でゴマサバ中、中小、小、豆（0～3歳魚：2020～2023年生まれ）主体の漁場が形成されました。6月に湯瀬、津倉瀬でゴマサバ中小、小（1～3歳魚：2020～2022年生まれ）主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では、期全体で2,809トンの水揚げで、前年の89%及び平年の55%でした。

### 3. 県内の令和5（2023）年7～9月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中、中小、小、豆（0～3歳魚：2023～2020年生まれ）

来遊量：前年を下回り、平年並み

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

4～6月期に漁獲の主体となっていたゴマサバ中、中小、小、豆が漁獲の主体となると考えられ、同期の漁模様を考慮すると、サバ類の来遊量は前年を下回り、平年並みと考えられます。

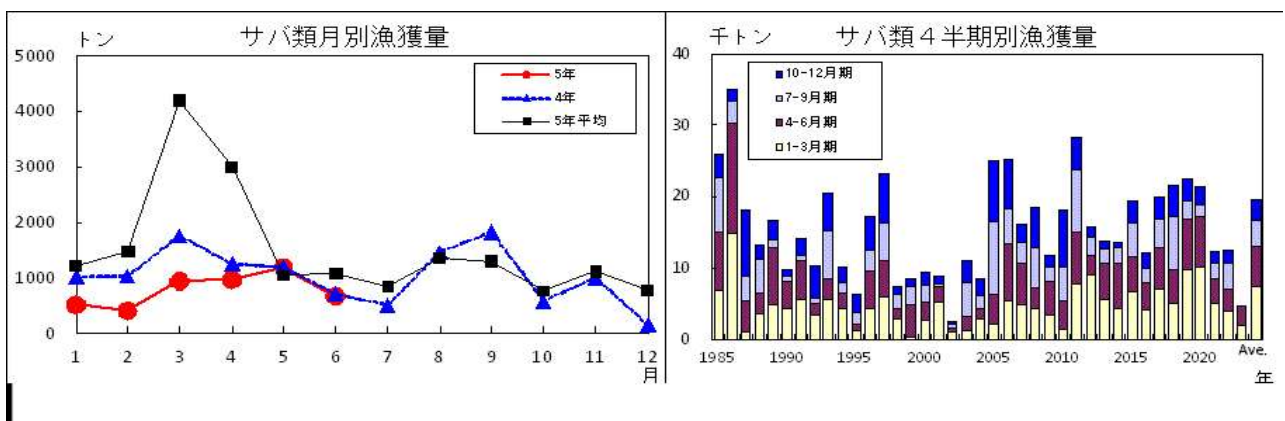


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年6月21日までの水揚げを使用

# [マイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2021年には68万2千トンとなりました。

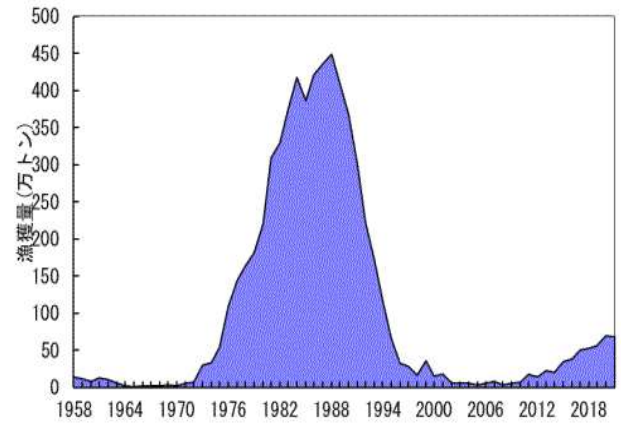


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

## 2. 県内の2023年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、4月に縄瀬、5月に牛深沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、4月に立目崎沖、5月に野間池沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～大羽（1歳魚：2022年生まれ）主体に317トンの水揚げで前年の1,133%、平年の976%でした。

北薩海域の棒受網では、小羽（0歳魚：2023年生まれ）主体に50トンの水揚げで前年の1,544%、平年の202%でした。

## 3. 県内の2023年7～9月期の見とおし

漁獲主体：小～中羽（0歳魚：2023年生まれ）

来遊量：前年を上回り、平年並み

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

今期の漁獲主体となる小～中羽（0歳魚：2023年生まれ）の来遊量は、前期の漁況を基に予測すると、今期は前年を上回り、平年並みと考えられます。

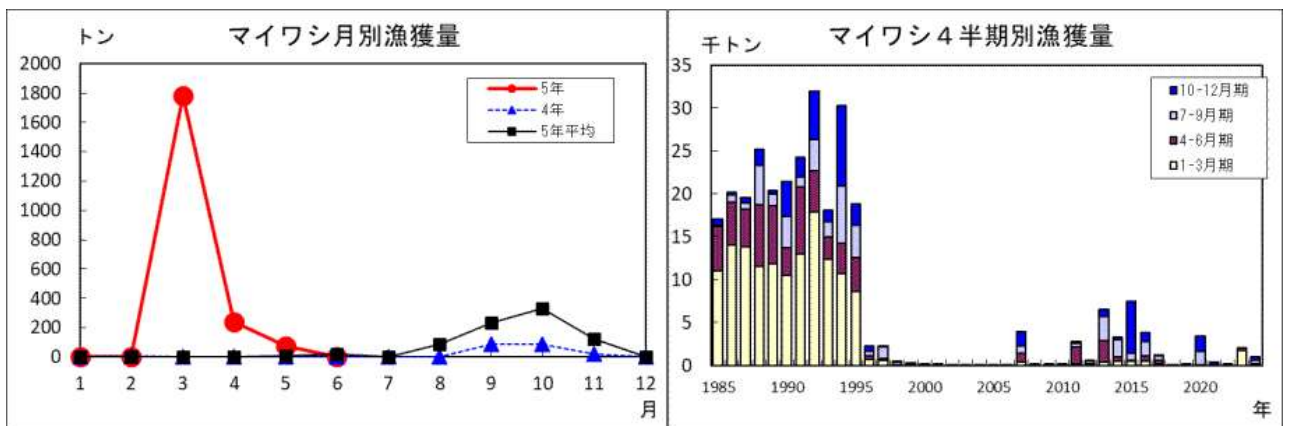


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年6月21日までの水揚げ量を使用

# [ウルメイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。

2021年の漁獲量は2020年よりも3万トン増加し7万3千トンとなりました。

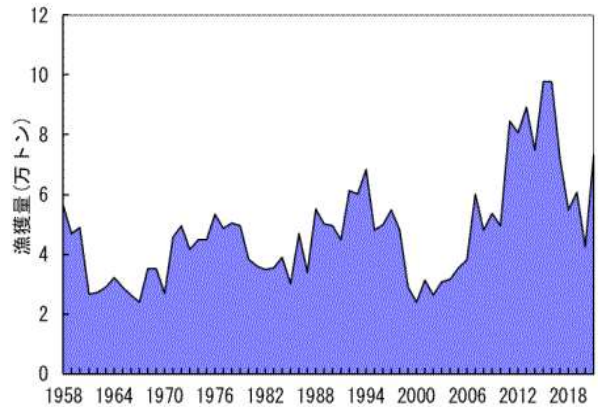


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の2023年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、4～5月に牛深沖で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、4月に立目崎沖、5月に枕崎沖、5～6月にかけて野間池沖で漁場が形成されました。

4港計のまき網では、期前半は中～大羽（1歳魚：2022年生まれ）、期後半は小羽（0歳魚：2023年生まれ）主体に404トンの水揚げで、前年の124%、平年の121%でした。

北薩海域の棒受網では、小～中羽（0歳魚：2023年生まれ）主体に76トンの水揚げで、前年の139%、平年の76%でした。

## 3. 県内の2023年7～9月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（0～1歳魚：2022～2023年生まれ）

来遊量：前年を上回り、平年並み

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過から予測しました。

今期の漁獲主体となる中～大羽（0～1歳魚：2022～2023年生まれ）の来遊量は、前期の漁況を基に予測すると、今期は前年を上回り、平年並みと考えられます。

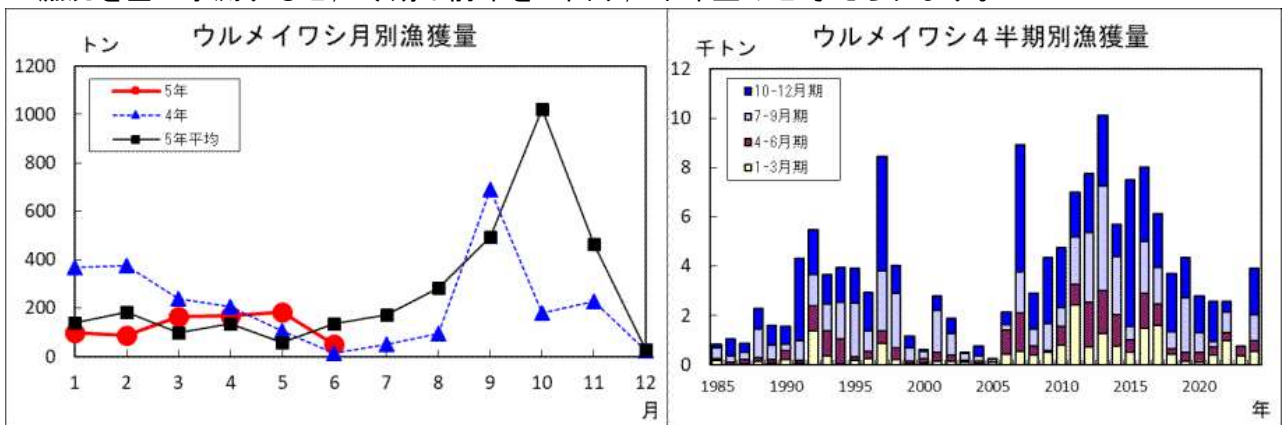


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年6月21日までの水揚量を使用

# [カタクチイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2021年は11万9千トンとなりました。

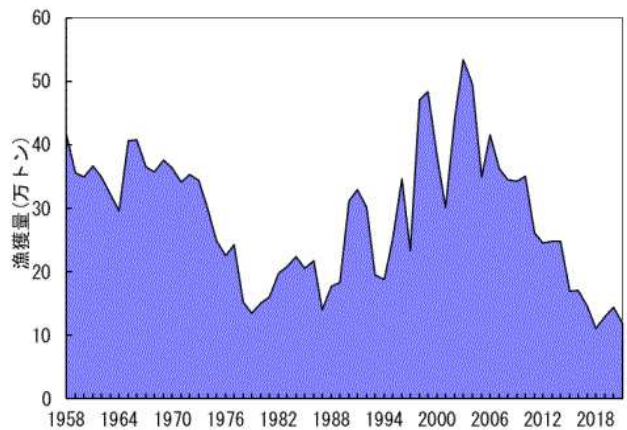


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

## 2. 県内の2023年4～6月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、5～6月に八代海で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、中～大羽（1～2歳魚：2021～2022年生まれ）主体に251トンの水揚げで、前年の67%、平年の39%でした。

北薩海域の棒受網では、中羽（1歳魚：2022年生まれ）主体に165トンの水揚げで、前年の102%及び平年の98%でした。

## 3. 県内の2023年7～9月期の見とおし

漁獲主体：小～中羽（0歳魚：2023年生まれ）

来遊量：前年を上回り、平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲主体となる小～中羽（0歳魚：2023年生まれ）の来遊量は、前期の漁況を基に予測すると、今期は前年を上回り、平年を下回ると考えられます。

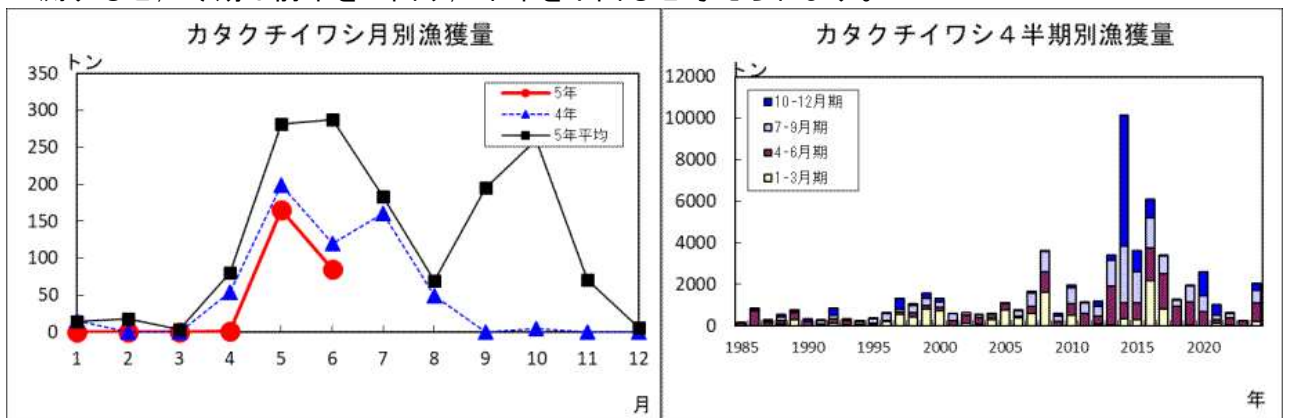


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年6月21日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

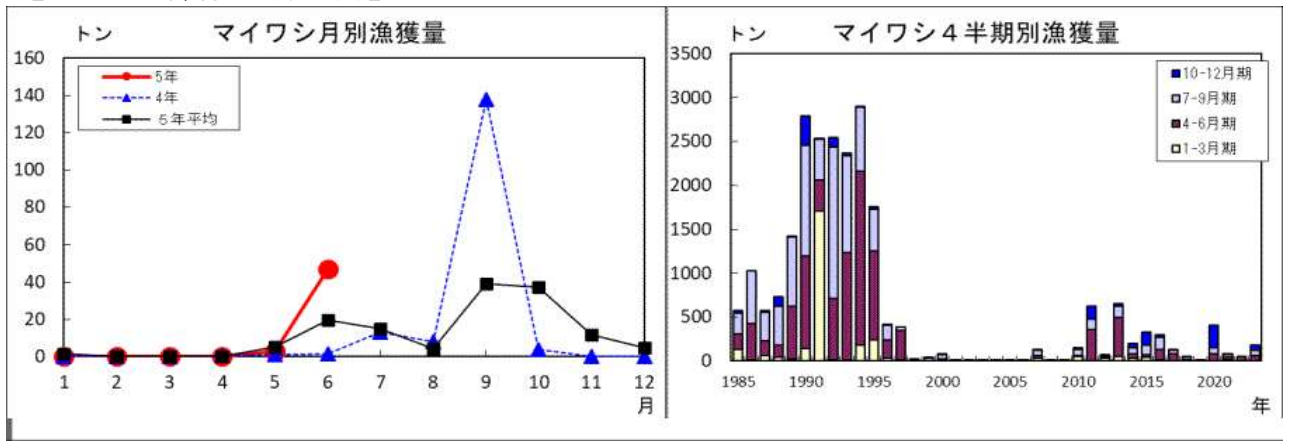


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

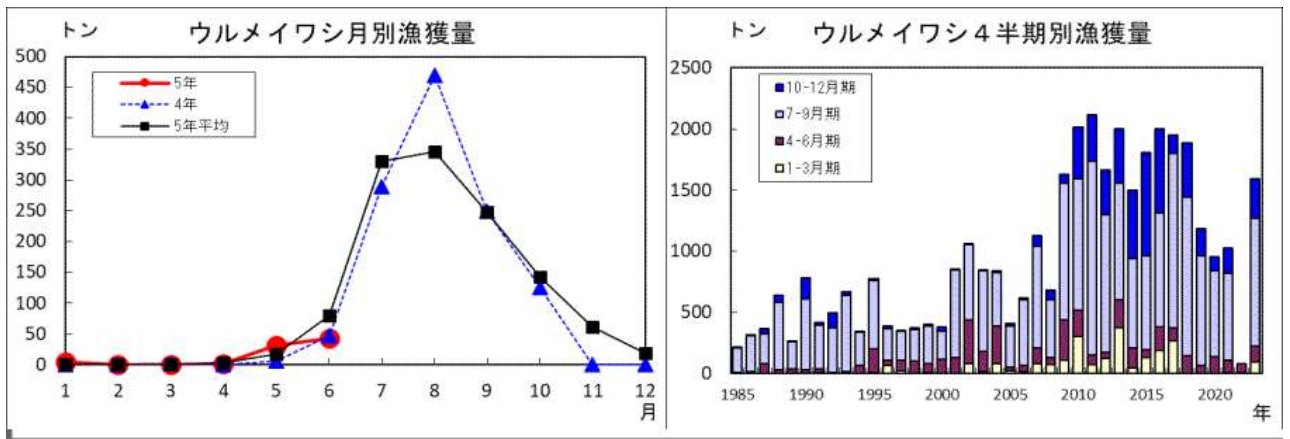


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

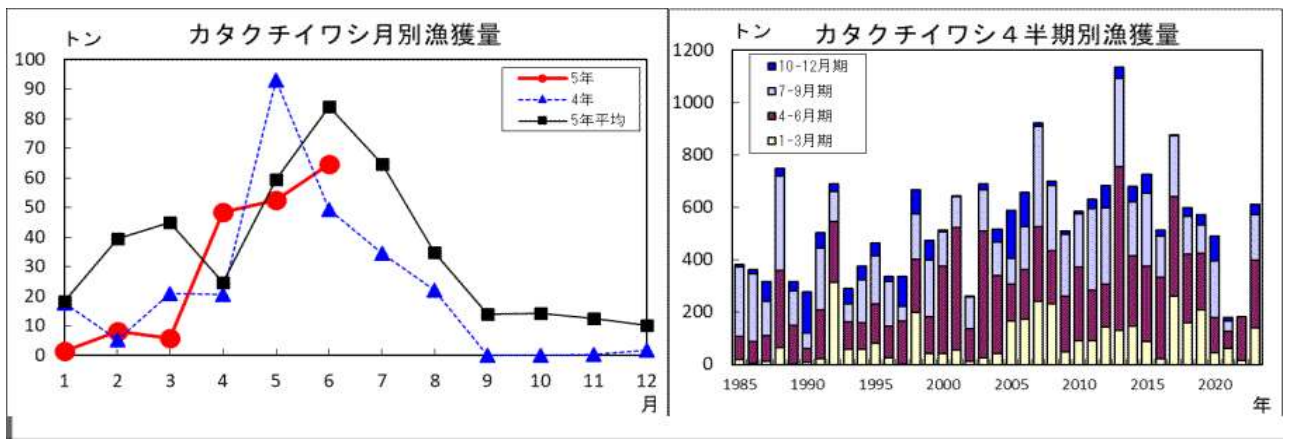


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年の平均値(AV), 2023年6月21日までの水揚量を使用

## [ムロアジ類 (参考：漁況経過のみ記載)]

〈クサヤモロ、ムロアジ、モロ (水産技術開発センター調べ：4港計)〉

### 1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トンピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2022年は2,708トンとなりました。

### 2. 2023年1～3月の漁況の経過

4港計のまき網では、臥蛇島、硫黄島沖、ヤクロ瀬でクサヤモロ中、中小主体の漁場が形成されました。期全体で184トンの水揚げで、前年の43%及び平年の44%でした。

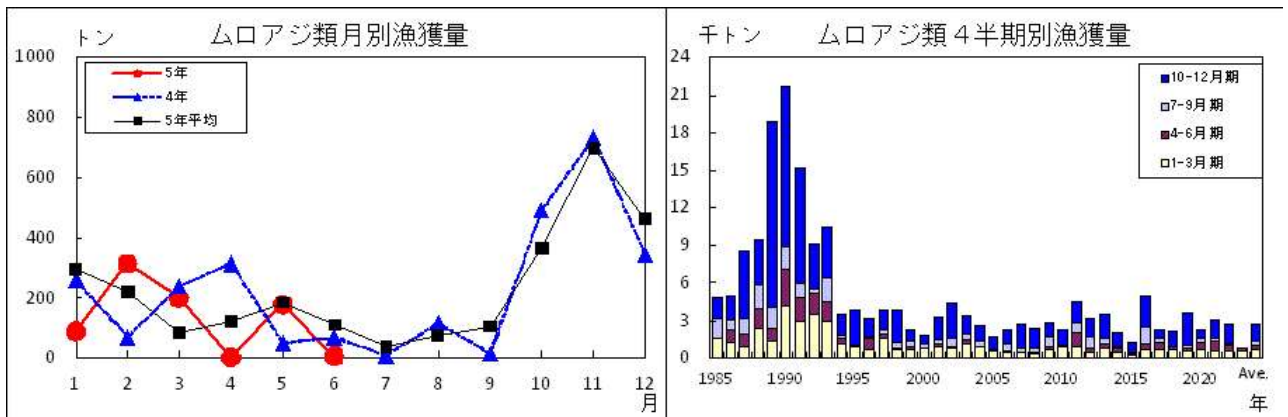


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年6月21日までの水揚量を使用

〈オアカムロ (水産技術開発センター調べ：4港計)〉

### 1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トンピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移していたものの、2022年は195トンと減少しました。

### 2. 2023年1～3月の漁況の経過

4港計のまき網では、屋久新、湯瀬、メクラ曾根、臥蛇島でオアカムロ大、中、中小主体の漁場が形成されました。期全体で21トンの水揚げで、前年の74%及び平年の8%でした。

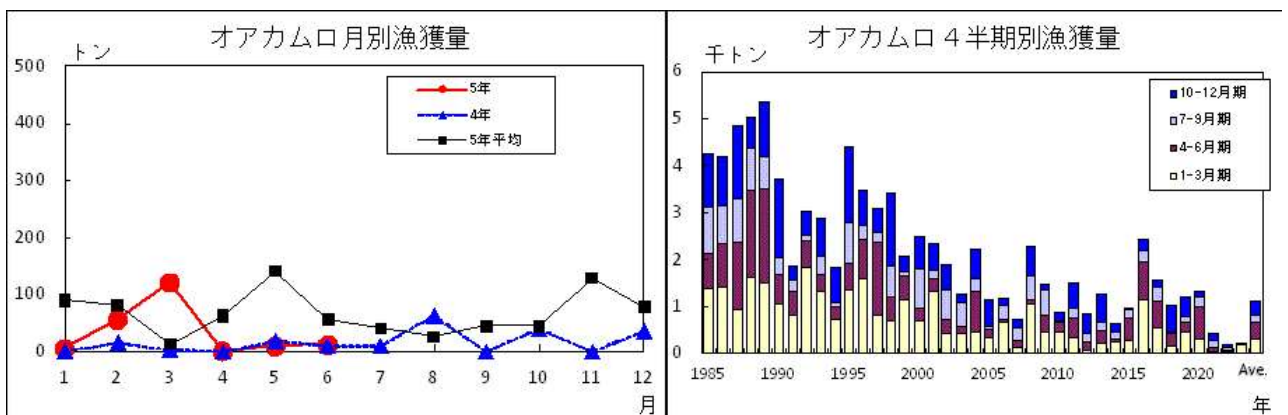


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2023年6月21日までの水揚量を使用

## 〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

### 1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987年から1989年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000年から2003年に再度ピークを迎え2003年には3,150トンと最高を記録しましたが、2004年以降は低調に推移し、2022年は217トンとなりました。

### 2. 2023年1～3月の漁況の経過

4港計のまき網では、野間池沖、内之浦沖、長島、牛深沖でマルアジ中、豆主体に漁場が形成されました。期全体で35トンの水揚げで、前年の109%及び平年の61%でした。

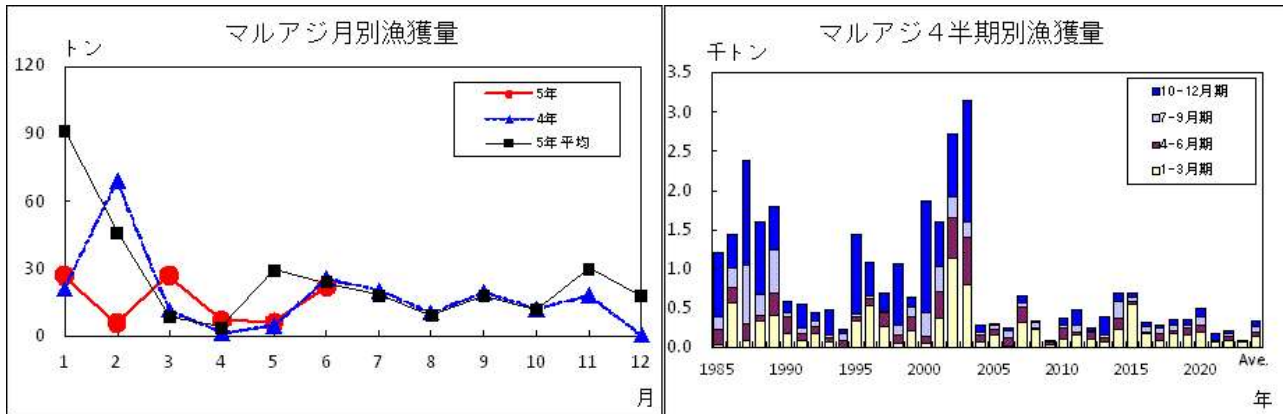


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2023年6月21日までの水揚げ量を使用